

地域全体で進める持続可能な社会の創り手の学び ～大牟田市の実践～



前大牟田市教育委員会教育長
大牟田市立宮原中学校 教頭

安田 昌則
高倉 洋美

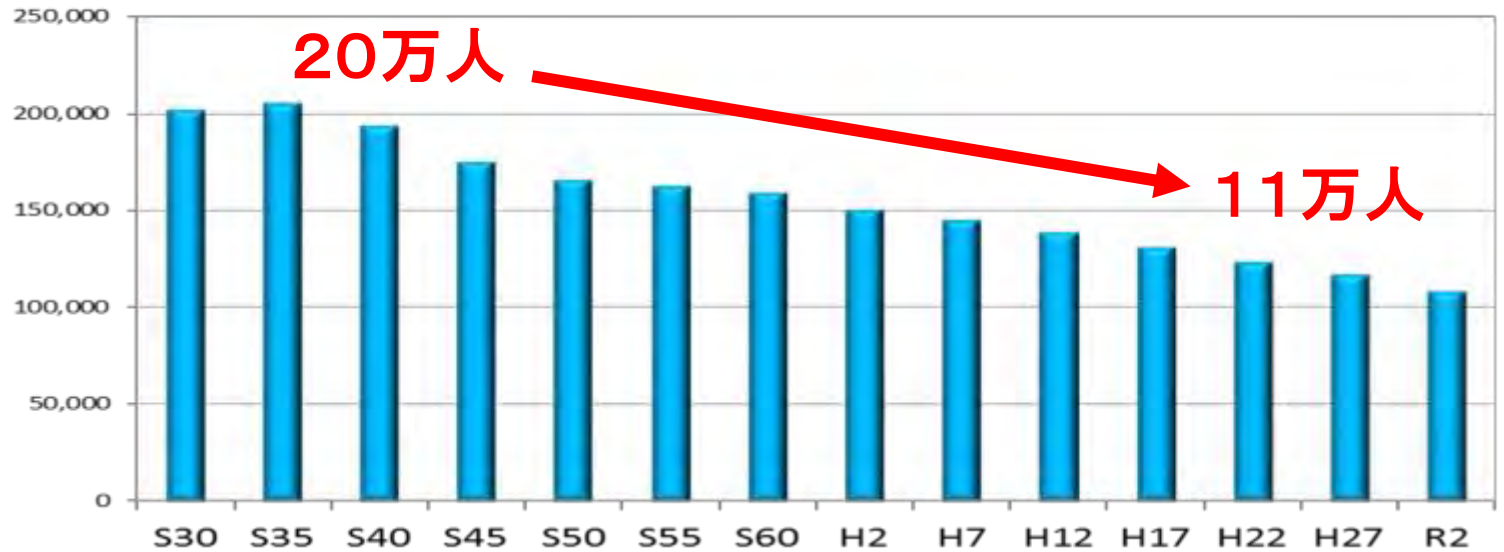
【大牟田市の現状：ユネスコスクール・ESDとの出会い】

福岡県の最南



石炭で栄えたまち（最盛期20万人超）

大牟田市の人口推移



○人口減少11万人（最盛期の半減）

少子高齢化（本市の高齢化率37.2%：全国28.9%）

○炭鉱閉山→炭鉱関連施設（世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」）

新しいまちづくりの模索 → 持続可能なまちづくりへ

石炭の火は消えても、教育の火は赤々と燃えている

10年前 文部科学省よりユネスコスクール・ESDの説明

【ユネスコスクール・ESDについての研究・検討】

研究

小学校校長会、中学校・特別支援学校校長会

小学校教頭会、中学校・特別支援学校教頭会

検討

校長会・教頭会での十分な議論

社会の潮流

学習指導要領

教育振興基本計画

本市の現状

大牟田市の目指すまちづくりと
ユネスコスクール・ESDの理念が一致

ユネスコスクール
加盟申請決定

丁寧な協議

全面的支援

教育委員会（教育課程検討委員会）

ESDの推進を決定

学校

トップダウンとボトムアップの

バランス

研究と加盟の協議を丁寧に行った

【ユネスコスクール・E S Dのまちへ】

市内全公立学校が一斉に
ユネスコスクールの申請



パリのユネスコ本部にて審査



承認

大牟田市の全小・中・特別支援学校が
ユネスコスクールに一斉加盟（2012年、1月）



※市内の全公立の学校が
ユネスコスクールに一斉に加盟したことは、
当時は世界でもめずらしい



ユネスコスクールのまち おおむた

※ESDによる明日への希望

子どもたちが大牟田に誇りを持ち、

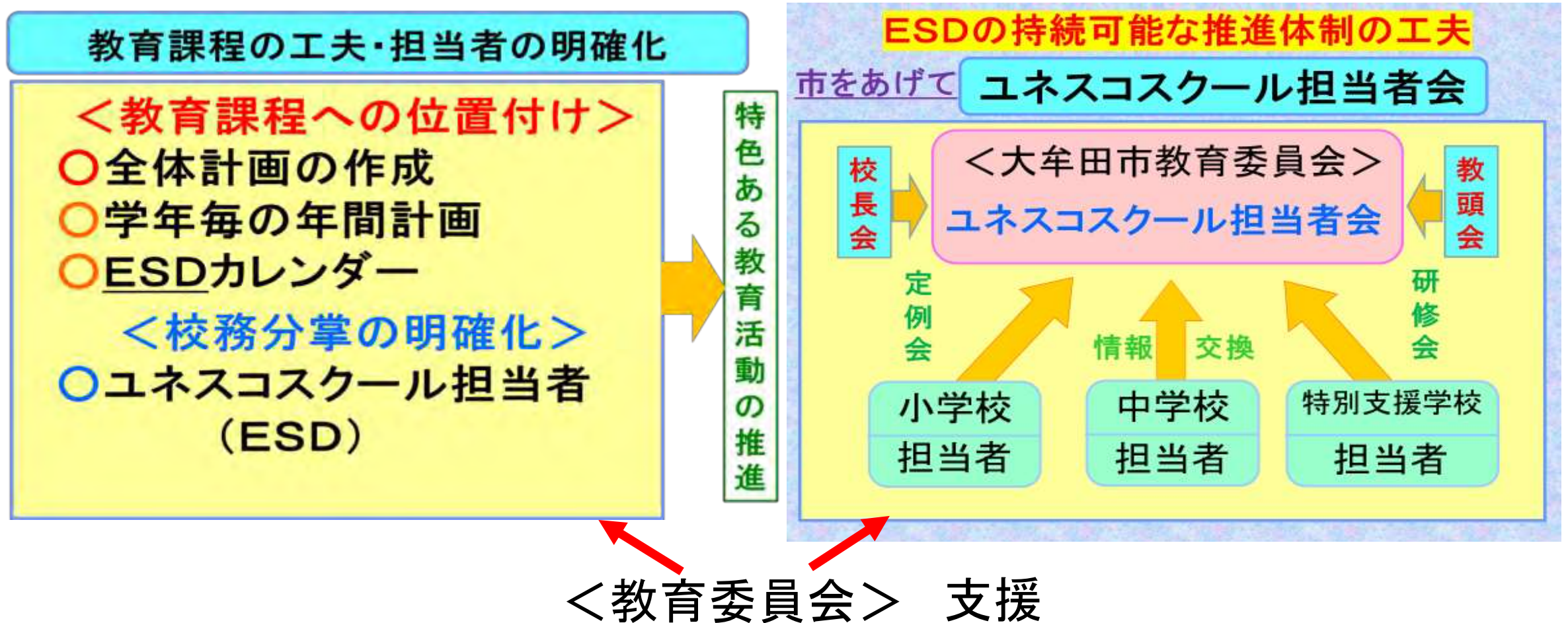
持続可能なまちの創り手に

※全国のESD先駆者・実践者との出会い



【ホールシティ・ホールスクールによる持続可能な ユネスコスクール・E S Dの推進体制の構築】

- 【各学校】
- ・教育課程への位置付け
 - ・ユネスコスクール担当者の明確化（校務分掌）
- 学校と教育委員会（市をあげて）



【大牟田市が進めるESDについての教職員研修】

＜研修の種類＞

多様な研修の機会の提供
(教職員が選択できる)

A研修: ESD・ユネスコスクールに関する理論研修

B研修: 大牟田市内の実践を交流する研修

C研修: 大牟田市外の実践を交流する研修

D研修: 授業実践を通じた研修

E研修: 大牟田市外の研修会を活用した研修

F研修: リーダー養成研修

G研修: 日常的な研修

但し、新任教諭、他市からの
教諭は、必ず研修を受講する。

【E S Dの諸施策での具体的展開 ①】

- ・ユネスコスクール・E S D全国実践交流会
- ・ユネスコスクール・E S D子どもサミット
- ・ユネスコスクール・E S D全国教育委員会サミット

全国実践交流会



子どもサミット



【E S Dの諸施策での具体的展開 ②】

- 子ども大牟田検定
- 「ユネスコスクール・E S Dのまち おおむた」宣言
- 「大牟田市ユネスコスクールの日」制定
- 啓発資料作成（リーフレット、ポスター、のぼり旗、H P、フェイスブック等）

啓発用リーフレット

ユネスコスクール・ESDのまち おおむた宣言



【市長部局、諸団体、企業との連携による取組】

市をあげてのE S Dの推進体制

○「大牟田市E S D推進本部」の設置

- ・各部局と連携した事業展開
- ・市職員のESD研修会

○大牟田市ESD

コンソーシアムの結成

教育委員会、学校と大学、企業・諸団体との連携によるESDの推進

○「大牟田市ESD推進協議会」の設立(多様な団体によるESDの推進)大牟田市文化連合会、退職校長会、大牟田市福祉協議会、大牟田ライオンズクラブ、大牟田柳川信用金庫 等

【大牟田市役所】

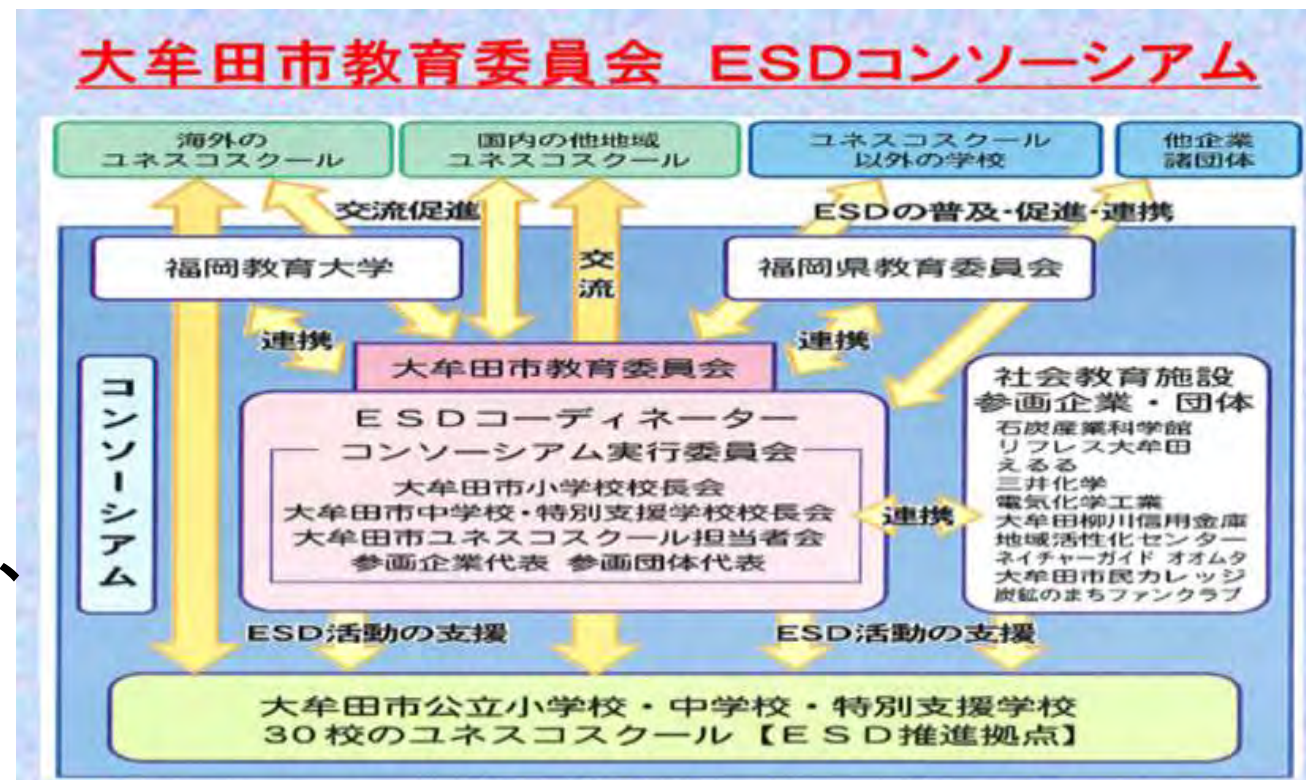
大牟田市ESD推進本部の設置

市長→本部長

教育長→副本部長

各部の部長→推進委員

※各部でESDの視点で事業を推進



【SDGsとの出会い ①】



ユネスコスクール・ESDのまち おおむた

ESD for SDGs



ESDのさらなる充実



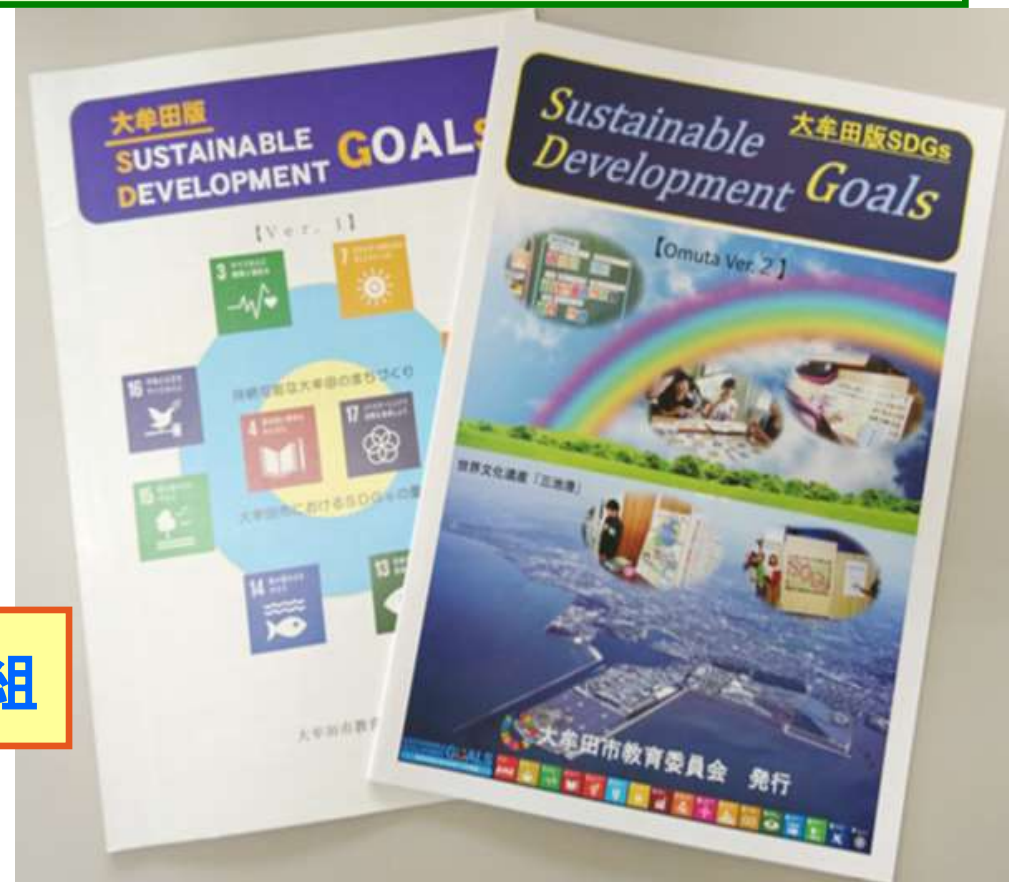
大牟田版SDGsの作成

普遍的課題を踏まえた大牟田の課題解決への取組

SDGsの取組



持続可能なまち おおむた (地方創生)



【SDGsとの出会い ②】



- 「SDGs おおむたマップ」作成 （各学校のSDGsの実践）
- 「SDGs 未来都市」選定
- 「ジャパンSDGsアワードの特別賞」受賞
- 国連大学RCEへの加盟認定

ジャパンSDGsアワードの特別賞受賞



国連大学RCEへの加盟



【地域の課題解決に向けたESD／SDGsの実践例①】

地域を持続可能なまちへ

地域と連携した実践

吉野小学校「吉野小さくらプロジェクト」 ～桜を通した まちの活性化へ～

桜の苗木植樹

「絆プロジェクト」との話し合い





【地域の課題解決に向けたESD／SDGsの実践例②】

花を通した 持続可能なまちづくりへ

大正小学校 「フラワータウンプロジェクト」



公園での花苗植え



近くの学校と駅に花の贈呈



地域の方へ苗の贈呈



「子供花屋」の開催



地域へ折り紙の花の贈呈



地域の方からのお礼

【地域の課題解決に向けたE S D / S D G sの実践例③】

<福祉学習>一人暮らしの高齢者との共生

中友小学校

「子ども民生委員活動」

11 食み続けられる
まちづくりを



高齢者宅訪問

地域の方と高齢者の方々と
共に活動する

地域の民生委員・
地域の方々との連携

認知症SOSネットワーク模擬訓練



【地域の課題解決に向けたE S D / S D G s の実践例④】

農業・食育を通じたまちづくり

玉川小学校「米づくりと伝統芸能の継承」



田植え

伝統芸能継承



米はかり踊り

手鎌小学校「干拓地での農業」

地域との共同農園



山羊の飼育
有機栽培



子ども朝市



【地域の課題解決に向けたE S D／S D G sの実践例⑤】

橘中学校



地域と連携した夜の防災学習

地域課題↓豪雨災害



地域のたからもの↓世界文化遺産

世界遺産を発信する生徒の写真展

宮原中学校

Jump!

地域のたからもの
～ぼくらの世界遺産写真展～

「宮原坑」、「鉄道敷跡」の写真をいろいろな角度からとりましょう。

プロのカメラマンのミニレクチャー

撮影会

【日時】：12月3日（木）曜日
5～6時間目

【場所】：宮原坑

【目的】：・自分と違う意見を持った人を、互いに認めていく力をつける。
・地域の宝「宮原坑」を広く発信する。

作品について

- 1、1人1作品。
- 2、「宮原坑」、「鉄道敷跡」のどちらか、または、両方を写真に入れる。
- 3、伝えたいことを考えて撮る。
- 4、人が写っている場合は、出品の了解をとる。
- 5、カメラは、学校で貸します。
(個人で持ってきててもよい)

賞 【学校長賞】【テクニカル賞】【最優秀賞】【優秀賞】

審査員 岩崎さん（岩崎写真館）、坂井さん（世界遺産文化財室）、学校長、教頭、一年職員
一年生保護者

展示会場 米生中学校 南校舎 三階

展示期間 12月10日（木）～12月16日（水）

大牟田市立米生中学校

担当：1年1組4班

河野悟天 村上賢太、渡辺海人、山口朋葉



【国際的な枠組みへの取組】～「国連海洋科学の10年」に向けた取組の推進～

持続可能な開発のための国連海洋科学の10年(2021-2030)

出典:
文部科学省

- ◆ 2017年12月の国連総会で採択・宣言
- ◆ 海洋科学の推進により、持続可能な開発目標(SDG14「海の豊かさを守ろう」等)を達成するため、2021-2030年の10年間に集中的に取組みを実施

国連海洋科学の10年

取組期間
2021-2030

2030 持続可能な開発目標の達成

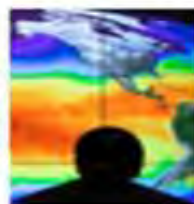
【目的】

- 海洋の持続的な開発に必要な科学的知識、基盤、パートナーシップを構築する。
- 海洋に関する科学的知見、データ・情報を海洋政策に反映し、全ての持続可能な開発目標達成に貢献する。

【重点的に行う取組み例】

- ・ 海洋システムや地球・気候システムにおける海の役割等に関する知識を広める。
- ・ 健全な海洋環境の増進と生態系システムに考慮した経済活動を支えるための研究を推進し、成果を幅広く共有する。
- ・ 海洋に関する事故・災害によるリスクを低減するための早期警報システムを構築する。
- ・ 海洋観測システム、データシステム等の基盤を強化する。
- ・ 海洋科学の知見や海洋技術の移転・共有及び教育・研修を通じた人材育成を促進する。
- ・ 民間部門を含めた海洋科学の関係者間の連携と政策決定者への迅速な情報伝達を強化する。

※上記はユネスコIOC事務局資料を基に作成。議論の進捗に応じて今後内容が更新される可能性あり



14.1 Prevent and Reduce marine pollution

14.2 Manage and Protect marine & coastal ecosystems

14.3 Minimize impacts of Ocean Acidification

14.4 Implement science-based management Plans

14.5 Conserve coastal and marine areas

14.6 Prohibit certain forms of fisheries subsidies

14.7 Increase socioeconomic benefit of SDG

14a Increase scientific knowledge ? Transfer of technology
14b Provide access for artisanal fisheries to marine resources & markets
14c Enhance conservation & sustainable use of oceans via international law

理想的な海の実現

Healthy and Safe Ocean

他のSDGsの達成にも貢献



ユネスコとの関係



- ◆ ユネスコIOC(※)において、「国連海洋科学の10年」に向けた取組みを推進

・「海洋科学の10年」の国連への提案主体

- ⇒ ユネスコIOCにおいて2年にわたり提案を審議。
- ⇒ ユネスコ総会を経て、2017年の国連総会で採択・宣言

・「海洋科学の10年」の実施計画策定機関

- ⇒ 2021-2030年に実施すべき具体的な取組みをまとめ、国連総会へ提出

※ユネスコIOC: 政府間海洋学委員会

- ・ 国際協力により地球規模での海洋学に関する知識、理解増進のための科学的調査の推進を図ることを目的に1960年に設立
- ・ 海洋科学調査及び研究活動に係る唯一の国連機関



【国際的な枠組みへの取組】

～「国連海洋科学の10年」に向けた取組の推進～

海を通したESD/SDGs(海洋教育)

東京大学との連携

有明海～日本の海～世界の海



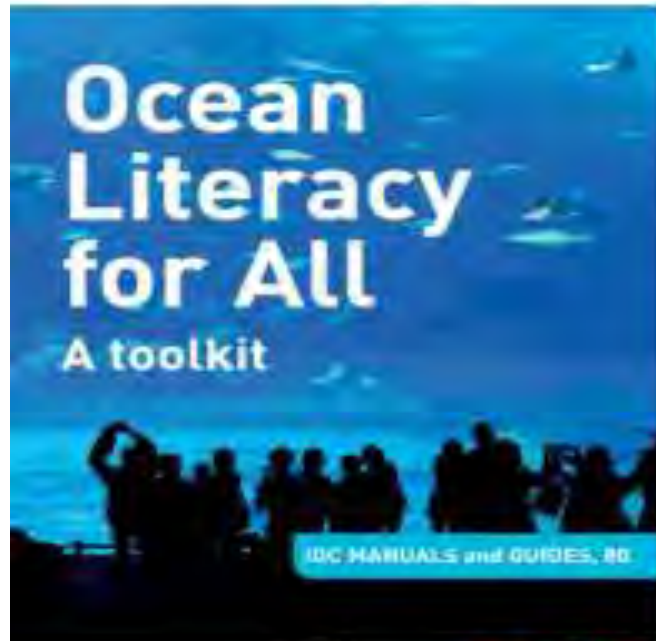
海洋リテラシーの育成 (カリキュラムの作成・実践)

【国際的な枠組みへの取組】

～ユネスコ・IOCにおける「国連海洋科学の10年」に向けた取組の推進～



国際標準の海洋リテラシーの育成 Ocean Literacy for ALL



Regional
Bureau
for Science
and Culture
in Europe



ユネスコ・政府間海洋学委員会
UNESCO/IOC

The essential principles of Ocean Literacy

1. 地球は、多くの機能を備えた大きな海を持っている
2. 海と海の生命は、地球の特徴を形作る
3. 海は、天候や気候に大きな影響を与える
4. 海は、地球を人間や生命が居住可能な環境にする
5. 海は、豊かな生命の多様性や生態系を支える
6. 海と人間は密接につながっている
7. 海は大部分がいまだに探検・調査されていない

出典： 及川幸彦氏(東京大学)のプレゼンより

【国際的な枠組みへの取組】

～ユネスコIOCにおける「国連海洋科学の10年」に向けた取組の推進～

大牟田市 海洋教育 副読本

大牟田市 海洋リテラシー育成計画

発達段階に応じた海洋リテラシー育成目標（大牟田 2021）



原則 1

海洋リテラシーの基本原則						
原則 1	原則 2	原則 3	原則 4	原則 5	原則 6	原則 7
地球上には、多様な特徴を備えた巨大な一つの海洋がある。	海洋と海洋生物が地球の特徴を形成する。	海洋は気象と気候に大きな影響を与える。	海洋が地球を生命生存可能な惑星にしている。	海洋が豊かな生物多様性と生態系を支えている。	海洋と人間は密接に結びついている。	海洋の大部分は未知である。
●有明海の自然豊かさを理解する。（同 原則 6） ●干潟体験などを通して、海の豊かさを体験する。（同 原則 6） ●海洋に関する取組を行う。（同 原則 6・7）	●大牟田市では石炭がたくさん採られていたことを理解する。 ●石炭に燃れて、その重さや質悪などを体験する。 ●石炭の絵を描いたり、触れた感想を書いたりする。（同 原則 6・7）	●夏によって雨が降り、降った雨は川から海に流れることを理解する。 ●暑かったり雨が降ったりすると、気温が下がる（寒い）ことを実感する。 ●雨に関係する歌をうたう。（同 原則 1・7）	●人間は呼吸したり飲食したりして生きていること、成長していることを理解する。 ●人間は魚を食べること、魚には命があることを考える。 ●魚の命を考えた上で、魚を食料として食べたり、アヒルや鶏を飼ったりする。（同 原則 1・7）	●海の中にはたくさんの種類の生物がいることを理解する。 ●様々な種類の海洋生物について触れたりする。 ●海をのびのびと遊べることを理解する。（同 原則 6） ●海洋に関する取組を行う。（同 原則 6・7）	●有明海の自然豊かさを理解する。（同 原則 1） ●干潟体験などを通して、海の豊かさを体験する。（同 原則 6） ●海洋に関する取組を行う。（同 原則 1・6）	●有明海は外国につながっていることを理解する。 ●海外に行き交う船はどこに向かっているのかを考える。 ●海洋に関する取組を行う。（同 原則 1・6）
●世界の大洋や、大洋間が繋がっていることを理解する。 ●正に産業の観点から、人間の生活が海洋の機能に変化を与えていることを考える。 ●正に環境の観点から、海洋の問題点について議論する。	●石炭は湿地（現在の有明海）の働きによって出来たことを理解する。 ●石炭ができる過程を湿地（海洋）の働きを基に考える。 ●湿地（有明海）の働きによって石炭が作られたことを実感する。	●雨は雲の厚さによって変化する。雲の厚さは気候によって変化する。生活に影響を与えることを考える。 ●正に産業の観点から、気候と生活との関係を意見交換する。	●日本では、海で獲れた魚を食べることが多いことを理解する。 ●海洋と人間の生活の関係を、水産業の観点から考える。 ●水産業の観点から、海洋と人間の生活とのかわり方を考える。	●海洋生物も陸上生物と同様に、それぞれに適した環境の中で生きていることを理解する。 ●人間の生活から出される排水やごみが生態系に与える影響について考える。 ●海洋の生物の多様性について発信する。（同 原則 1・7）	●海洋は燃焼（体を動かす、結や歌をつくる）の対象となることを理解する。 ●海洋の楽しみ方を、観覧車やスポーツ、絵画などの観点から考える。 ●燃焼の観点から、海洋と人間の生活の関係を意見交換する。	●海洋は陸地より広く、とても深いことを理解する。 ●海の深さや広さを陸上のものと比較しながら考える。 ●深海の生物を基に、深海（未知の世界）の面白さを発見交流する。
●海流や水の循環、潮流など、海洋の機能が人間の生活に与える影響を理解する。 ●正に産業の観点から、人間の生活が海洋の機能に変化を与えていることを考える。 ●海洋の問題点やその解決策について議論する。	●降雨による浸食等の働きや、地形等から、地形的な陸上と海洋との関係を理解する。 ●浸食等の働きを基に、陸地の膨張的な変化を考える。 ●干野や高などの地形の特徴を降雨による浸食等の働きを基に意見交換する。	●海洋の海流によって気候が影響を受けることや、植物が二酸化炭素を吸収することを理解する。 ●日本各地の気候の特徴を海流の働きから考える。 ●日本各地の気候の特徴がもたらす価値について議論する。	●産業の 2/3 は海洋で生成されていることや、日本は世界的に水産業が盛んであることを理解する。 ●海洋の働きと人間の生命維持の関係を考える。 ●海洋と人間の生活の密着していることを意見交換する。	●海洋には陸地よりはるかに多様な生態系があることを理解する。 ●生態系に対する人間の生活の影響について考える。 ●海洋の多様な生態系と、人間の生活との関係について発信する。	●日本にとって、運輸で世界各国と繋がることの意味を考える。 ●産業の観点から、海洋と人間の生活の関係を意見交換する。	●海洋の大部分は未知の世界である（火災や地震よりも怖い）ことを理解する。 ●人間が活用している海洋の価値について考える。 ●海洋の大部分が未知であることの驚き、面白さ、不思議さについて意見交換する。
●海洋の機能の変化が人間の生活にもたらす影響を未来の視点で理解する。 ●海洋の機能に対し、人間の活動が与える影響を評価する。	●プレート運動により、海洋で形成された地帯構造が陸地の特徴として現れていることを理解する。 ●プレートの動きを基に、陸地と海	●科学的な観点から ENSO には、海洋の働きが必要不可欠であることを科学的に理解する。 ●海洋の働きを基に、気候と海	●人間が生命を維持するためには、海洋の働きが必要不可欠であることを科学的に理解する。 ●海洋の働きを基に、人間の生命維持の持続可能性の関	●海洋の生態系をつくる複合的な要素（地形・気候・海流など）と、それらのバランスを理解する。 ●海洋の生態系がバランスを崩壊し、崩壊する可能性があることを理解する。	●海洋がもたらす経済効果や、観光や娯楽を基に海の価値について理解する。 ●経済、産業、娯楽の観点から海洋がもたらす経済効果に	●海洋と人間の生活との関係から、海洋の大部分を調査が重要であることを理解する。 ●海洋がもたらす経済効果に

1 海は世界中、つながっている

世界中の海には「太平洋」や「大西洋」など、それぞれ名前がつけられています。そう聞くと、何だかそれぞれが別の海のように感じてしまいがちですが、そうではありません。

例えば、地球儀を使って南極側から地球を見てみてください。太平洋も大西洋もインド洋も、ひとつにつながっていることが分かりますね。

私たちに身近な有明海も同じです。有明海は周りを陸に囲まれているようですが、地図を見ると、島原半島



世界地図で見る陸と海（青で示されているのは海や湖）

雲は水蒸気（小さな水の水蒸気が集まると雲になり、粒になって降ってくるので、雲をつくる水蒸気れるのでしょうか。実は、

太陽の熱で温められた海で水蒸気となり、空へと上気が雲をつくるのです。雲り水もまた、海と太陽の熱

海洋リテラシーについての副読本の内容

【ユネスコスクール等：国内外の学校との交流】

子どもたち同士のつながり：学び合い

○宮城県気仙沼市
○愛媛県新居浜市
○北海道留寿都村
○宮崎県綾町

○奈良県奈良市
○岡山県岡山市
○島根県大田市
○佐賀県玄海町 等

○トルコ ○カナダ ○フランス ○シンガポール
○中国 ○キリバス 等



本市小学校：苗を育てて販売
(植林に協力)



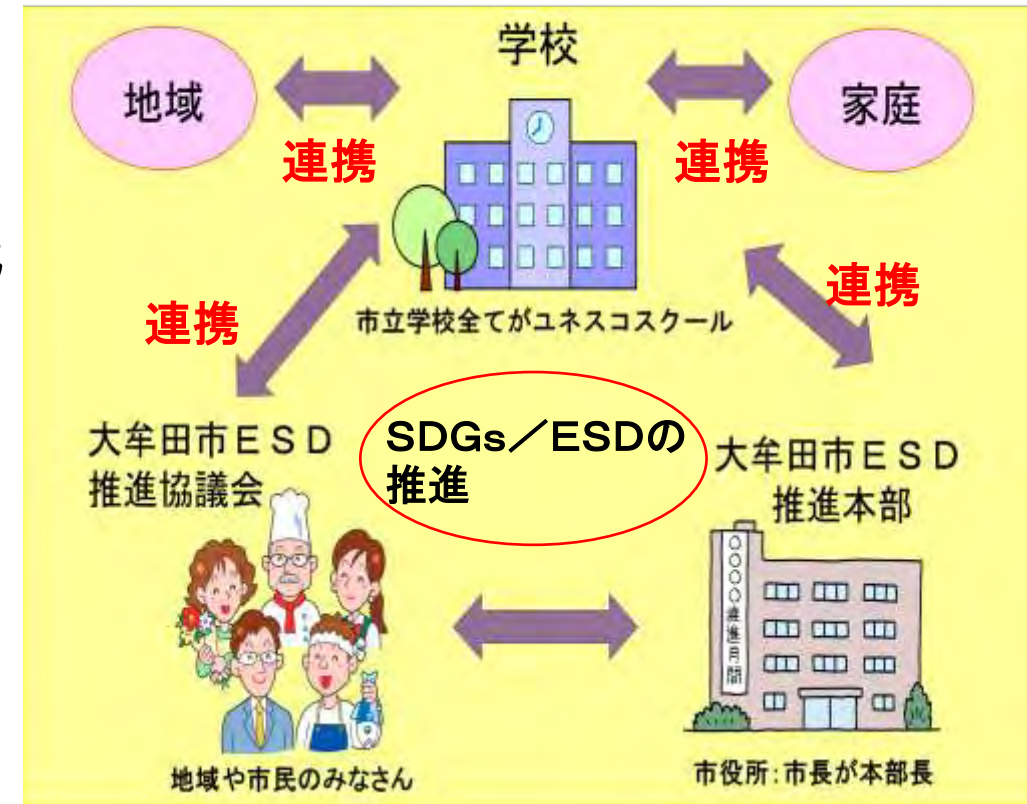
キリバスのマングローブの
植林活動



本市小学校とマーシャル諸島：
デラップ小学校と地球温暖化を
テーマに交流

【大牟田のSDGs／ESDの特徴 ①】

- (1) 教育を中心とした持続可能なまちづくりへの思い
- (2) ホールシティによるDGs／ESDの推進体制
大牟田市がすすめているSDGs／ESD
- (3) ユネスコスクールの系統的・持続的なSDGs／ESDの実践
- (4) 教育委員会の着実なSDGs／ESDに関する施策の展開



【大牟田のSDGs／ESDの特徴 ②】

(5) 継続した人材育成

(ESD／SDGs マスターティーチャー、
ESD／SDGs 研究所員等、多様な研修)

マスターティーチャー研修会



(6) 全国のSDGs／ESDの専門家・ 実践者からの指導

(7) 全国のステークホルダーとの連携 (共創によるSDGs／ESDの推進)

(8) 国内・海外の学校や教育委員会等 との交流 (学びの場の共有)

中国大同市からの
学校訪問



【「地域全体で進める持続可能な社会の創り手の学び」の成果】

【学校・教育委員会】

- 教育課程・教育活動の創意工夫→ 学校教育の充実・学校の特色
- 校内協働体制の推進→ 学校の活性化
- 教職員の地域資源を生かした授業改善→ カリキュラム・マネジメント力、授業力の向上
- 学校と地域・諸団体との連携→ 持続可能なまちづくりの取組推進



【子ども】

- 地域課題への具体的実践→ 主体的学び（自分の考え、行動）の高まり
- 地域課題から地球課題へ→ 自分事としての意識の向上
社会貢献への意識・行動の向上
※小さな市民や住民の一員としての行動
- 校内外や地域等との交流→ コミュニケーション力・表現力の向上
- 国際的な取組参加→ 活動や視野の広がり



【地域】

- 多様なステークホルダーとの重層的な連携→ 市民の「持続可能な社会づくり」の思いの高まりと活動の拡大

10年前(中学校3年生)→ESDに出会う→ESDを次世代へ→教師をめざす
→大学進学→福岡県教育委員会採用試験合格→**大牟田市の小学校に赴任**





**第9回ユネスコスクール全国大会(in大牟田) 当時の中学生
ユネスコ本部のザビーネ氏を(大牟田の世界遺産)英語でガイド**